

努力賞
(子どもの部)

「これからも なかよくね」

荒川区立第二瑞光小学校二年

金澤 あおば

きつねさん、せっかくゲームでぜんぶかったのに、ずるしたって言われてかなしかったでしょ。しかも、雨がふっているのに外に出されて、ますますかなしくて、くやしくてわる口を言っちゃったんだよね。そんな気もちわかるよ。

でもね、わたしも友だちとゲームをやってぜんぜんかてなかったとき、

「もう一回やって、ぜったいかつから。」
と言ったのにまたまけたんだ。わたしはくやし

て、いやになっちゃって「もうやらない」プイッと なっちゃったんだよ。おおかみくんはそんな気もちだったと思うんだ。つぎの日、ねておきてもいい気分でおきれなかったし。おおかみくんもきつと しょぼんとなっているよ。

きつねさんはそのあと、わるかったなあと思ってあやまりにはらっぱに行ったんだよね。でも、なかなか「ごめんね」が言えなくてぎんねんだったよ。 だったら、お手がみに書いてみたらいいと思うな。こう書くんだよ。

『おおかみさんへ

この前は、ごめんね。すぐにあやまれなくて。今 だったら言えるよ。だって一ばんの友だちなんだもの。大すきだよ。』

ってね。そして、ポストに入れるんだよ。きつとす

ぐになかなおりにできるよ。今までずっといっしょにあそんでいたんだもん。きっとわかってくれるよ。

友だちっていいよね。いっしょにあそべるし、こまったときにもたすけてくれる。二人でなかなおりにしてうたったうたとってもたのしそうだったよ。いいね。よかったね。いつまでもななかよくね。